

1-2 山武市農業の現状、課題

1. 特徴

● 恵まれた立地・気候を生かして発展した県下有数の農業地帯

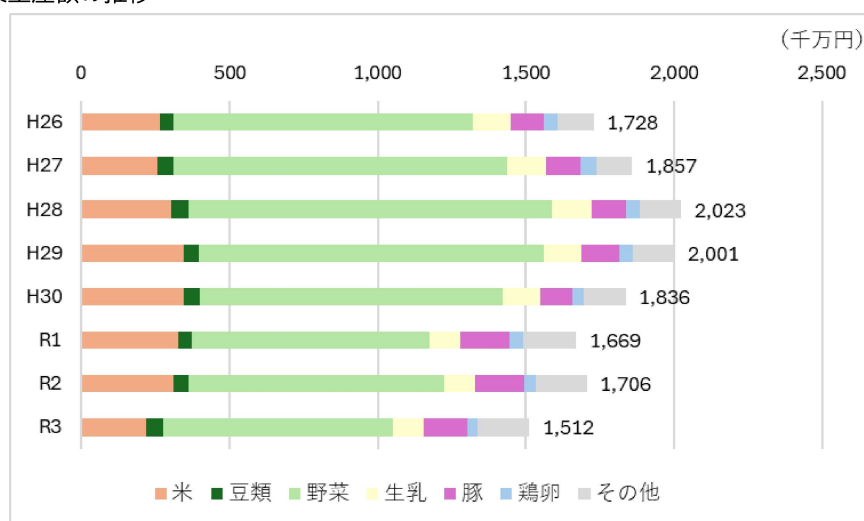
千葉市や成田国際空港、都心に近いという地理的条件の良さから、生鮮食料品の輸送を含め、物流やインバウンドに関わる立地ポテンシャルが高い地帯です。また、山武市一帯は、温暖な海洋性気候で、農林業に適しています。こうした恵まれた立地・気候のもとで育まれる山武市の農業は市の基幹産業となっています。農業生産額は令和4年に1,579千万円で、県下市町村の第6位の規模です。(図表10、図表11)

図表10 千葉県における農業産出額上位の市町村（令和4年）

		農業産出額（千万円）				
		うち米		うち野菜		
		農業産出額	割合	農業産出額	割合	
1位	旭市	5,011	299	6%	1,589	32%
2位	香取市	2,933	512	17%	461	16%
3位	銚子市	2,122	44	2%	1,433	68%
4位	成田市	2,058	221	11%	332	16%
5位	八街市	1,669	7	0%	1,023	61%
6位	山武市	1,579	226	14%	796	50%
千葉県		36,388	4,723	13%	13,354	37%

出典：市町村別農業産出額（推計）

図表11 農業生産額の推移



補足：凡例区分は、山武市において生産額が高い6つの農作物を選び、それ以外はその他としてまとめて出した。
区分のうち花きについては、平成30年まで年間60千万円程度（割合にして約4%）の額が計上されているが、令和元年以降は秘匿扱いとなっているため、その他に含める形とした。

出典：市町村別農業産出額（推計）

● 食生活に欠かせない農作物を“多種類生産”する首都圏の食料基地

山武市は、東から西に向けて、九十九里海岸、広大に広がる沖積平野、そして丘陵地帯3つの地形に大別されます。市内の各地域ではこうした地形条件を活かして、米、野菜、果実などの多様な農産物が生産されています。農業産出額を見ると、野菜の生産額が最も多く50%を占めますが、野菜は少量多品目生産が行われているとともに、米、畜産なども一定の産出額があることから、特定の生産物への偏りが少なく、多様な種類の農産物が生産されている点が特徴となっています。（図表 10、図表 11、図表 12）

図表 12 生産品目別の概況等

米	早場米の産地であり、収量の増加や安全・安心な品質向上などの取組が進む
野菜	「多品目産地」で、普段の食生活に欠かせない野菜を多く栽培 (ネギ、ニンジン、スイカ、ダイコン、ホウレンソウ、トウモロコシ、イチゴ、トマト、サトイモ、ソラマメ、ゴボウ、ニラ、メロン、サヤインゲン等)
花き	栽培農家が少ないものの優秀な経営がされている (シクラメン、アガベ、コニファー等)
果樹	日本なしが最も多く、多様な品目が栽培。販売形態は市場出荷と店頭販売に分かれ、日本なしは観光主体の店頭販売が大半
畜産	乳牛や豚、肉用牛、採卵鶏などを飼育



出典：[左上、左下以外] 山武癒旅ホームページ（さんむ農泊推進協議会）

● 良好な田園風景と盛んな観光・体験農業、伝えられる農業文化

山武市は、自然豊かな観光リゾート地です。海水浴やサーフィン、テニスなどのスポーツが楽しめ、若者にも魅力ある地域資源を有しています。その中でも農地が広がる田園景観は、地域の資源として認識されています。落ち着いた環境の良さを求めてこの地域を訪れ、移り住む人々も多くいます。

また、山武市の農業・農産物は、重要な観光資源となっています。年間を通して野菜や果物などの収穫体験ができる観光農園が人気です。特にいちご狩り体験は関東有数の規模を誇り、様々な品種の食べ比べができます。

農業にまつわる行事や文化等が地域に受け継がれています。農作業の安全や五穀豊穡を祈願する神楽などの伝統行事は、地域の四季を彩る風物詩となっています。



出典：[下段左] イチゴ狩り（山武市ホームページ）、[下段右] 稻荷神社の神楽（山武市ホームページ）